

# 非常災害対策計画

あすなろ近隣住民の皆様へ

地震発生時対策マニュアル

水害・台風発生時対策マニュアル

火災発生時対応マニュアル

暑さ・寒さ対策マニュアル

降雪時の対策マニュアル

停電時対策マニュアル

災害時の人員体制・指揮系統・関係機関との連携体制

## あすなろ近隣住民の皆様へ

あすなろでは、地域の方々に話を聞きながら、防災等のマニュアルを作成することができました。

もしも自宅で火災が起きたり、大きな地震があったりして、一人で行動するのが不安な場合、一人で自宅にいるのが不安な場合、どうしたらいいかわからないときはあすなろにいらして下さい。

また、あすなろの方からも地域の方に助けを求めることがあると思いますのでその際は力を貸して下さい。

### 自宅が火災にあった場合

- ・あすなろは24時間常時職員がおります。お手伝いできることがあれば、声をかけてください。夜間21時～7時までは職員1人でのいる為すぐには駆け付けられない場合もあります。

- ・自宅が火災に遭い、自宅に居住することができなかつたりした場合あすなろに一時避難して、生活が落ち着くまで生活の拠点にあすなろを活用してください。

### 自宅が倒壊するような地震が発生した場合

- ・避難しなければならないような大きな地震のときは、あすなろでも避難を開始すると思うので、あすなろに来て一緒に避難をしましょう。

- ・避難しなくても大丈夫な地震でも、自宅にいて不安な際はあすなろに来てください。停電時に備え、発電機やガスコンロなど必要なものはある程度そろえています。

### 大きな台風・大型の低気圧により水害の恐れがある場合

- ・あすなろ職員は防災マニュアルに沿って行動しています。災害の情報の収集も常に行っているため、あすなろに来て一緒に待機してもらえればと思います。いざ、避難するとなればすぐに避難しなければならない状況と思われるので、職員だけでは利用者を避難誘導するのに足りないため地域の方がいてくれたら心強いです。

※上記のことに限らずなにか不安なことがあったり、対応に迷った際はいつでもあすなろにいらして下さい。

小規模多機能型居宅介護支援事業所 あすなろ

TEL : 72-2020

## ◇特別警報◇

特別警報は、これまでにない危険が迫っていることをお知らせします。

特別警報が発表されたら

- ・尋常でない大雨や津波が予想されています。
- ・重大な災害が起こる可能性が非常に高まっています。
- ・ただちに身を守る為に最善を尽くしてください。

## ◇特別警報が発表されたら

特別警報が発表された場合、発表された地域では「重大な災害のおこるおそれが著しく大きい」状況となっている。つまり、特別警報が発表されてから避難行動を開始するのではすでに手遅れの可能性もあります。特別警報が発表される前に安全な避難をすることが何よりも重要です。

- ・外の状況を確認し、安全の確保が可能であると判断した場合には避難所などの安全な場所へ移動。
- ・周囲で災害などが発生している場合、少しでも安全な場所へ移動する。

＜安全な場所＞

- (1) 土砂災害：傾斜地から離れた場所。より頑丈な建物や部屋。
- (2) 浸水：河川・低地などから離れ、標高の高い場所にある建物や部屋。
- (3) 大雪：雪崩のおそれがあることから傾斜地から離れた場所や部屋。
- (4) 暴風：飛散物などから身を守るため、より頑丈な建物や部屋に入り、雨戸やカーテンを閉め、窓から離れる。

## ◇特別警報の発表基準◇

現象の種類	基準	
大雨	台風や集中豪雨により数十年に一度の降雨量となる大雨が予想され、もしくは、数十年に一度の強度の台風や同程度の温帯低気圧により大雨になると予想される場合	
暴風	数十年に一度の強度の台風や同程度の温帯低気圧により	暴風が吹くと予想される場合
高潮		高潮になると予想される場合
波浪		高波になると予想される場合
暴風雪	数十年に一度の強度の台風や同程度の温帯低気圧により雪を伴う暴風が吹くと予想される場合	
大雪	数十年に一度の降雪量となる大雪が予想される場合	
津波	高いところで3メートルを超える津波が予想される場合	
火山噴火	居住地域に重大な被害を及ぼす噴火が予想される場合	
地震	震度6弱以上の大きさの地震動が予想される場合	

命を守る為に情報の収集に努めてください。

特別警報は、自治体や報道機関を通じて伝えられます。テレビやインターネット、自治体から発信される情報の収集に努めてください。

### 特別警報に相当する事例

気象等	H24.7 九州北部豪雨(大雨)	死者行方不明者 32 人
	H23 台風第 12 号(大雨)	死者行方不明者 98 人
	S34 伊勢湾台風(大雨・暴風・波浪・高潮)	死者行方不明者 5,000 人以上
	S9 室戸台風(大雨・暴風・波浪・高潮)	死者行方不明者 3,000 人以上
津波	H23.3 東北地方太平洋沖地震	死者行方不明者 18,000 人以上
	H5.7 北海道南西沖地震	死者行方不明者 230 人
	S58.5 日本海中部地震	死者 104 人 (いずれも地震を含む)
火山	H12 三宅島	全島民避難
	H12 有珠山	15,000 人以上避難
	H3 雲仙岳	死者行方不明者 43 人
地震	H23.3 東北地方太平洋沖地震	行方不明者 18,000 人以上 (津波を含む)
	H20.6 岩手・宮城県内陸地震	死者行方不明者 23 人
	H19.7 新潟県中越沖地震	死者 15 人
	H16.10 新潟県中越地震	死者 68 人
	H7.1 兵庫県南部地震	死者行方不明者 6,437 人

- ・「特別警報が発表されない」は「災害が発生しない」ではありません。
- ・これまでどおり注意報、警報、その他の気象情報を活用し、早めの行動をとることが大切です。
- ・普段から避難場所や避難経路を確認しておきましょう。

### ◇地震の警戒宣言発令時の対応

地震の警戒宣言が発令されたときは、情報収集に努め、混乱を防止し、火災等による被害を大幅に減少させることを念頭において行動することが必要です。

危険性を考慮して業務を中止し、目前に迫った地震に備えるため、次の応急措置を行います。

情報収集・伝達	テレビ・ラジオ、防災機関からの情報収集と家族への伝達
緊急避難場所の 確認	第一避難場所：熊野神社→茂市小学校 第二避難場所：茂市駅
出火防止	止むを得ないものを除き、火気使用設備の使用停止、使用火気および消火器等の確認、取り扱いの注意
建物、設備等の 緊急点検	ガムテープ等によるガラス・照明器具等の固定・ブラインド等の閉鎖、事務機器、破損しやすい物、重量物等の転倒防止及び床置き
非常時持出品の 確認	搬出の準備
防災用品の確認	すぐ使用できる場所への移動

### ◇災害時の情報収集・通信手段

停電に備え、発電機や乾電池、各機器のバッテリーや充電器を備えておいてください。

手段	備考
テレビ	停電時もワンセグは視聴可能
ラジオ	停電に備え、携帯ラジオ・電池を用意
公衆電話、携帯電話、固定電話	公衆電話は、停電時テレホンカードは使用できないため、10円硬貨を用意
インターネット電話	Skype、LINE 等
インターネット	Web、メール、SNS(Twitter、Facebook)等

### ◇安否確認サービス

電話等で直接連絡が取れない場合に利用できる安否確認サービスです。

サービス	会社	内容
災害用伝言ダイヤル(171)	NTT	被災地の方の固定電話番号をキーにして、安否等の情報を音声で登録・確認できる
災害用伝言版 (web171)	NTT	インターネット上で、被災地の方の固定電話・携帯電話 番号をキーにして、安否等の情報を文字・音声・画像で登録・確認できる
災害用伝言版	携帯電話各社	被災地の方の携帯電話番号をキーにして、安否等の情報を音声で登録・確認できる
災害用音声お届けサービス	携帯電話各社	携帯端末から携帯電話番号で指定した相手に音声メッセージを送信できる

## ◇水害対策◇

### 水害発生が予想される前の対策

家まわりの危険物の除去	ベランダや庭などの家の回りに雨で流れてしまいそうなものがないか、吹き飛ばされそうなものがないかを確認します。流されやすいものは片付けておきます。
気象情報に注意を払う	テレビ、ラジオ、インターネット、新聞などでこまめに天気予報、注意報、警報を確認し情報を入手し気象の変化に気をつけます。
家電製品の対策	電化製品を低い場所から高い場所に移動させます。漏電による停電を防ぎます。 低い位置にあるコンセントを抜きます。漏電、家電製品が壊れるのを防ぎます。

### 水害発生時の気をつけること

避難所への避難	地域全体が危険と判断された場合に避難勧告や指示があります。それに従い速やかに避難します。危険が迫っているときは自主的に避難します。
避難のポイント	住んでいる地域の避難場所を事前に調べ、安全な避難経路を確認します。子供や高齢者、病気の人などは早めに避難します。長靴だと水の中や障害物の上を歩きにくいので紐靴の脱げにくい靴を履いて避難します。はぐれないように人同士をロープでつなぎます。杖などを用いて確認しながら、足元に注意して避難します。
危険箇所に近づかない	危険な場所に近づかないようにします。河川に近づかない。水があふれ出たり、ふたの外れたマンホールには近づかないようにします。道路の側溝がつまっていたり、道路の低くなっているところは水がたまりやすく危険です。
安全な場所へ移動する	水が流れ込み始める前に地下階からは早めに移動します。病人や乳幼児は早めに安全な場所へ移動します。外出中に危険が迫った時は近くの丈夫な高い建物に逃げます。浸水の深さが腰までくるときは水の中を歩かないようにする。
自宅で避難する場合	自宅で避難せざるを得ない人や自宅が大丈夫で自宅で生活を送るには注意と工夫が必要です。救援物資が届くまでの3日分の食料の備蓄を用意しておきます。むやみに外出しないようにします。2階に移動し貴重品・食料品等も高い場所に移動させます。水害情報に注意を払います。

## ◇火災の対策◇

### 火災の原因とその対策

火災の原因として挙げられるのが 1 位「放火」2 位「たばこ」3 位「ガスコンロ」です。それぞれの対策を確認し、いざというとき冷静に対応できるようにしておきましょう。

放火・・・突然の火災でも速やかに消火活動ができるように、消火器や消火栓の位置を把握しておきましょう

たばこ・・・灰皿に水を入れ、消し忘れをチェックする習慣をつけ、寝室ではなるべく喫煙を控えましょう

ガスコンロ・・・ゴムホースのベトナムつぎひび割れを日頃チェックし、電話や来訪者対応時は火を消しましょう

たこあし配線・・・コードが家具に踏まれていないか・コンセント差込口の埃がないかチェックしましょう

ストーブ・・・ストーブの近くには燃えやすいものを置かないようにしましょう

### 消火器の使い方を知っておく

いざというときに冷静かつ速やかに消火活動ができるように、消防署が行う防災訓練などに積極的に参加しましょう

### 避難場所を確認しておく

玄関から避難できない場合を想定して、2ヶ所以上の避難場所を確保し、家族全員で確認しておきましょう

### 火災が発生してしまったら

#### 1. 早く知らせる

火事を誰かに知らせる

- ・「火事だ」と大声を出し近所の人に知らせましょう
- ・声が出ない場合鍋などをガンガン叩いて知らせましょう
- ・小さな火でも 119 番通報しましょう

#### 2. 早く消す

初期消火を行う

- ・消火器や水を使って素早く消火しましょう
- ・消火器等が家庭にない場合は、座布団で火をたたいたり毛布で火を覆ったり、身近なものはなんでも活用しましょう
- ・水を使って消火してはいけないものに注意しましょう

※「天ぷら油」「石油ストーブ」「電気器具」の火災は水で消火しようとする、火災が拡大したり感電する危険性があります。消火の際は消火器の使用や毛布等で覆って消火しましょう。

#### 3. 早く逃げる

安全に避難する

- ・天井に火が燃え移ったら消火をやめ避難しましょう
- ・服装や貴重品にこだわらず、早く避難しましょう
- ・煙の中では姿勢を低くし、濡れたタオル等で口や鼻を覆いましょう
- ・いったん逃げ出したら再び中には戻らないようにしましょう
- ・逃げ遅れた人がいるときは、消防隊にすぐ知らせましょう

## 水害・台風発生時対策マニュアル

風水害は、気象情報などで危険の接近を知ることができ、事前の準備ができる災害です。  
テレビ・ラジオ等で気象情報を得て、大雨・台風時は常時、気象情報に気をつける。

爆弾低気圧・大型の台風が直撃すると予報でわかっている際は、利用様が自宅にいた方が安全と考えられれば、自宅にいてもらう等の対策も考えます。

大型台風・水害が予想される天候、警報が発表



情報の収集・施設周辺の点検・職員の招集



担当業務内容の確認や準備・ご利用者様、家族への周知



施設外へ避難



家族への報告・健康ケアとメンタル対策

#### <情報の収集>

- テレビやラジオ、インターネットなどによる大雨や台風に関する気象情報に注意する。
- 警報は急に出ることも多いため、常時、気象情報に気をつける。
- 地域住民の方と連絡を取り、情報を共有する。

#### <施設周辺の点検>

- 施設周辺・堤防まで行き定期的に、川の水かさの増加や土砂災害の前兆現象がないか注意しましょう。
- 施設周辺に飛ばされる物がないかを確認し、中に入れたり物置にしまったりする。
  - ・物干し竿は倒して一か所にまとめておく。

#### <職員の召集・参集>

- 夜間・対応職員が不足の際は、夜間ならオンコール職員・所長・主任へ連絡し指示を仰ぐ。
- 日中でも対応職員不足の際は、所長・主任へ連絡し指示を仰ぐ。

#### <担当業務内容の確認や準備>

- 災害警戒時には、担当別の業務内容を確認し、速やかに避難等の対応ができるよう、点検や準備などをしましょう。
- ・情報収集・連絡担当班(気象情報の継続確認、防災関係機関・地域住民からの情報収集・(利用者家族への連絡)
- ・救護班(医薬品の点検、準備等・避難の際持っていく物品の確認)
- ・安全対策班(施設外にある飛ばされそうなものの室内や物置へ移動・火の元の点検・発電機使用の準備・避難場所、経路、場所の確認)

#### <避難>

- 防災関係機関・地域住民から避難に関する情報を得たとき、施設周辺で少しでも異常現象を見つけたときには避難を決定しましょう。
- 被害状況を入手し、最も安全と思われる避難場所・避難経路を選びましょう。
- 施設職員が不足している場合、地域の協力者も得て避難するようにしましょう。
- 利用者様により避難誘導の方法は異なるので、速やかに安全に避難誘導行う。
- 避難する際は、火の元・ブレーカーの確認を行う。

### <健康ケアとメンタル対策>

○利用者様の健康状態や、精神状態を確認し、体調管理や不安感の軽減に努めましょう。

### 避難判断の基準

1時間の雨量

～50mm【強い雨】

避難することを考え準備をしておく。

- ・勤務者で、上記の連絡担当班・救護班・安全対策班と担当を決める。
- ・連絡担当班－所長・主任・紫桐苑へ連絡する。(今後どうするか相談)  
気象情報の継続確認を行う。(テレビ・ラジオ・インターネット)  
地域住民の方と連絡を取り合い情報共有する。  
利用者家族へ連絡する。(今後のサービスの確認・あすなろで過ごすか自宅に帰した方がよいか等 )
- ・救護班－利用者様の体調確認を行う。  
医薬品の準備、点検をする。(利用者様の薬・救急箱・AED 等)  
避難時持っていく物品の確認をする。  
衣類(上着・下着・タオル・毛布等)  
食料・飲料水・ガスコンロ・炊飯器(避難先に持っていきあまり調理のいらない食料品)  
手袋・ウェットティッシュ・ビニール袋・ガムテープ  
ラジオ・懐中電灯・マッチ・チャッカマン・オムツ・工具等  
断水に備え浴槽にお湯をためておく
- ・安全対策班－施設周辺・堤防まで行き定期的に、川の水かさの増加や土砂災害の前兆現象がないかを確認する。  
※外は大雨で見通しがきかないことが予想されるため無理はしない  
公用車、携行缶への給油を行う。  
発電機の準備をする。(延長コード型ドラム・延長コード)  
避難場所、避難経路の確認を行う。(地図参照)  
車両の移動を行う。

### 80mm 以上【猛烈な雨】

これ以上降り続けたら避難が必要になるので、すぐに避難できるよう準備する。

- ・連絡担当班－所長・主任・紫桐苑へ連絡する。(今後どうするか相談)  
    気象情報の継続確認を行う。(テレビ・ラジオ・インターネット)  
    地域住民の方と連絡を取り合い情報共有する。  
    利用者家族への連絡。
- ・救護班－引き続き利用者様の体調確認を行う。  
    安全対策班へ、準備した医薬品・避難先へ持っていく物品を公用車へ積むよう指示する。
- ・安全対策班－施設周辺・河川の様子・避難場所、避難経路の安全確認を行う。  
    携行缶・発電機・救護班が用意した医薬品・その他持っていく物品を公用車に積み避難先へ移動させておく。

### 特別警報発令【大雨特別警報（土砂災害・浸水害）】

すぐ避難しましょう。

- ・連絡担当班－避難開始する旨の連絡する（紫桐苑・新里分署）  
    その後はすぐ避難誘導に従事する。その間も気象情報のチェックは行う。
- ・救護班－利用者様を避難誘導させる。  
    避難先で利用者様が休める所を確保する。  
    避難完了した利用者様のバイタルチェック行う。
- ・安全対策班－すぐ避難経路が安全かを確認する。  
    その後すぐ避難誘導に従事する。

## 大雨・台風で予想される被害

### ・1時間雨量の目安

10～20mm【やや強い雨】ザーザーと降り、地面一面に水たまりができる。

20～30mm【強い雨】土砂降りで、側溝や下水があふれ、小さな川の氾濫や、崖崩れがはじまる。

30～50mm【激しい雨】バケツをひっくり返したように降り、道路が川のようになる。  
山崩れ、崖崩れが起きやすくなり、危険地帯では避難の準備が必要。

50～80mm【非常に激しい雨】滝のように降り、地下に雨水が流れ込む。土石流が起  
りやすい

80mm 以上【猛烈な雨】息苦しくなるような圧迫感があり、大規模な災害の発生する恐  
れ。厳重な警戒が必要。

特別警報 台風や集中豪雨により数十年に一度の降雨量となる大雨が予想され、若し  
くは、数十年に一度の強度の台風や同程度の温帯低気圧により大雨になると  
予想される場合。

#### ・風の被害の目安

※風速は 10 分間の平均風速です。最大瞬間風速は平均風速の約 1.5 倍～3 倍以上になるこ  
とがあります。

風速 10～15m/s【やや強い風】風に向かって歩きにくくなる。取り付けの悪い看板やト  
タンが飛びはじめる。

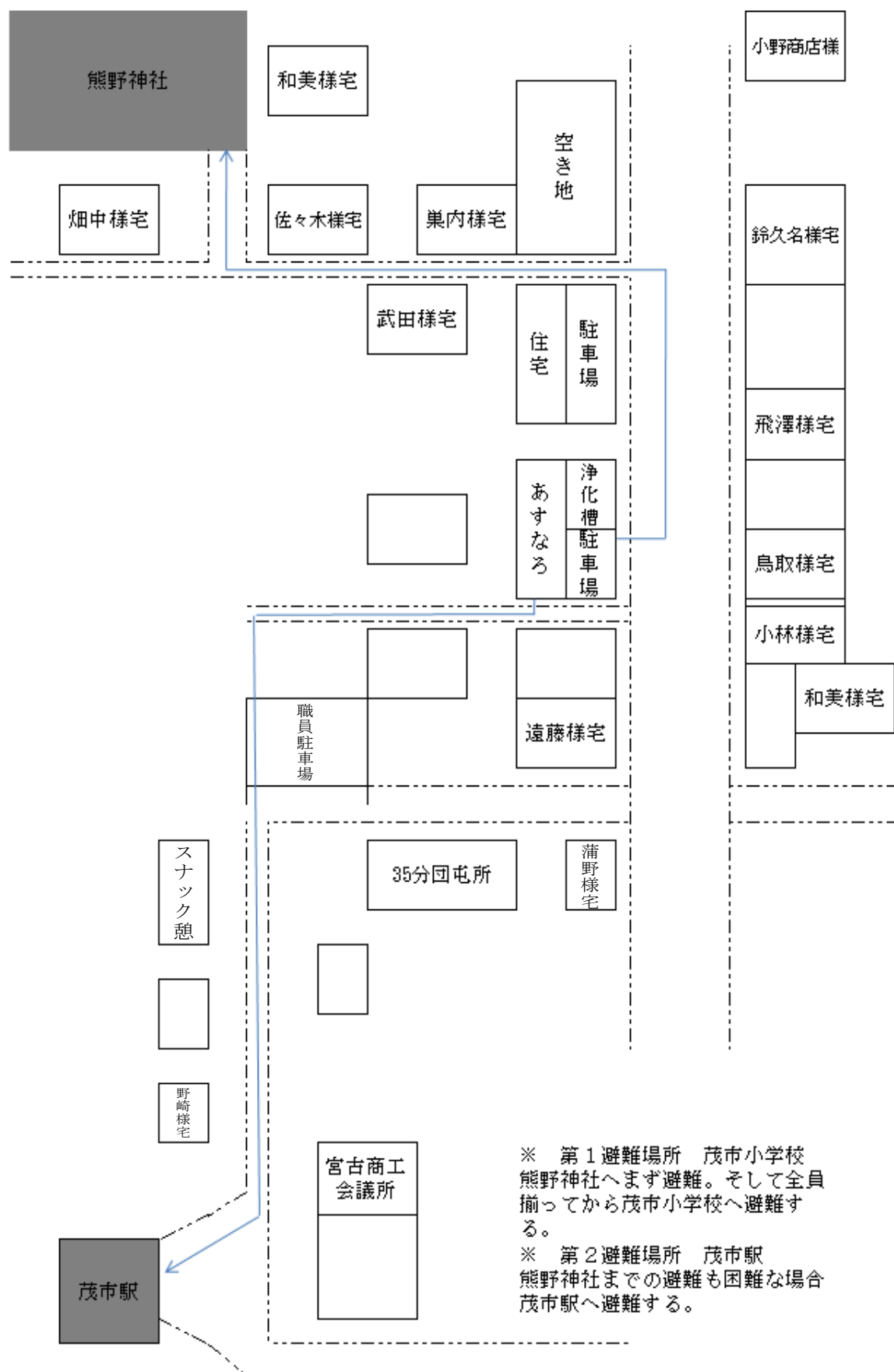
風速 15～20m/s【強い風】風に向かって歩けない。ビニールハウスが壊れはじめる。

風速 20～25m/s【非常に強い風】しっかりと身体を確保しないと転倒する。風で飛ばさ  
れたもので窓ガラスが割れる。

風速 25～30m/s【非常に強い風】立っていられない。屋外での行動は危険。樹木が根こ  
そぎ倒れはじめる。

風速 30m/s 以上【猛烈な風】屋根が飛ばされ、木造住宅の全壊がはじまる。

特別警報 数十年に一度の台風や同程度の温帯低気圧により暴風が吹くと予想される  
場合。



## 災害時における 人員体制・指揮系統・関係機関との連携体制

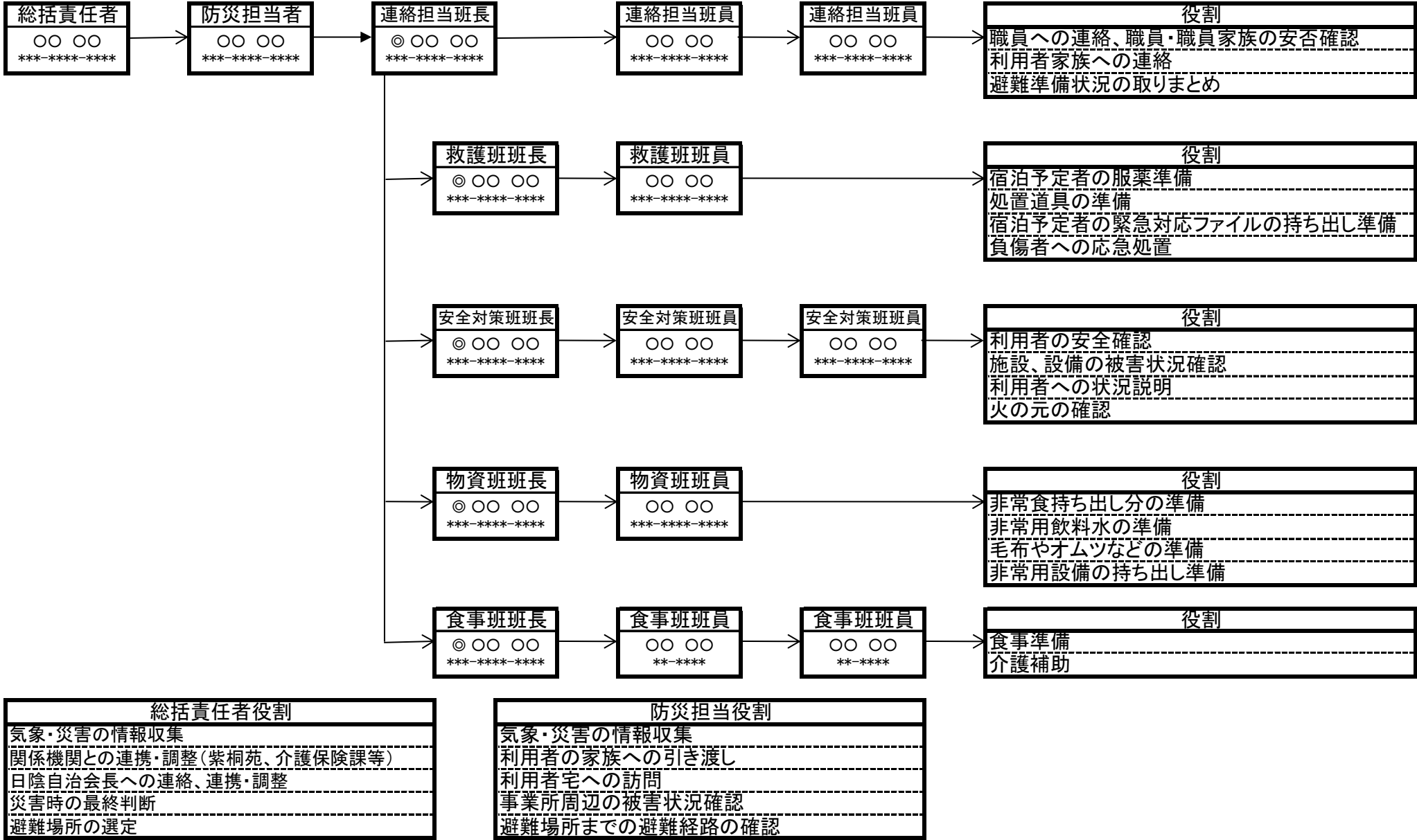
災害時はこの指揮系統図・人員体制・関係機関図に沿って対応する事。

※各職員は自分の担当班と担当内容を確認し、災害時の自分の役割を把握しておく。また、災害時の指揮系統と人員体制を把握し、職員同士の連絡を速やかに行う。

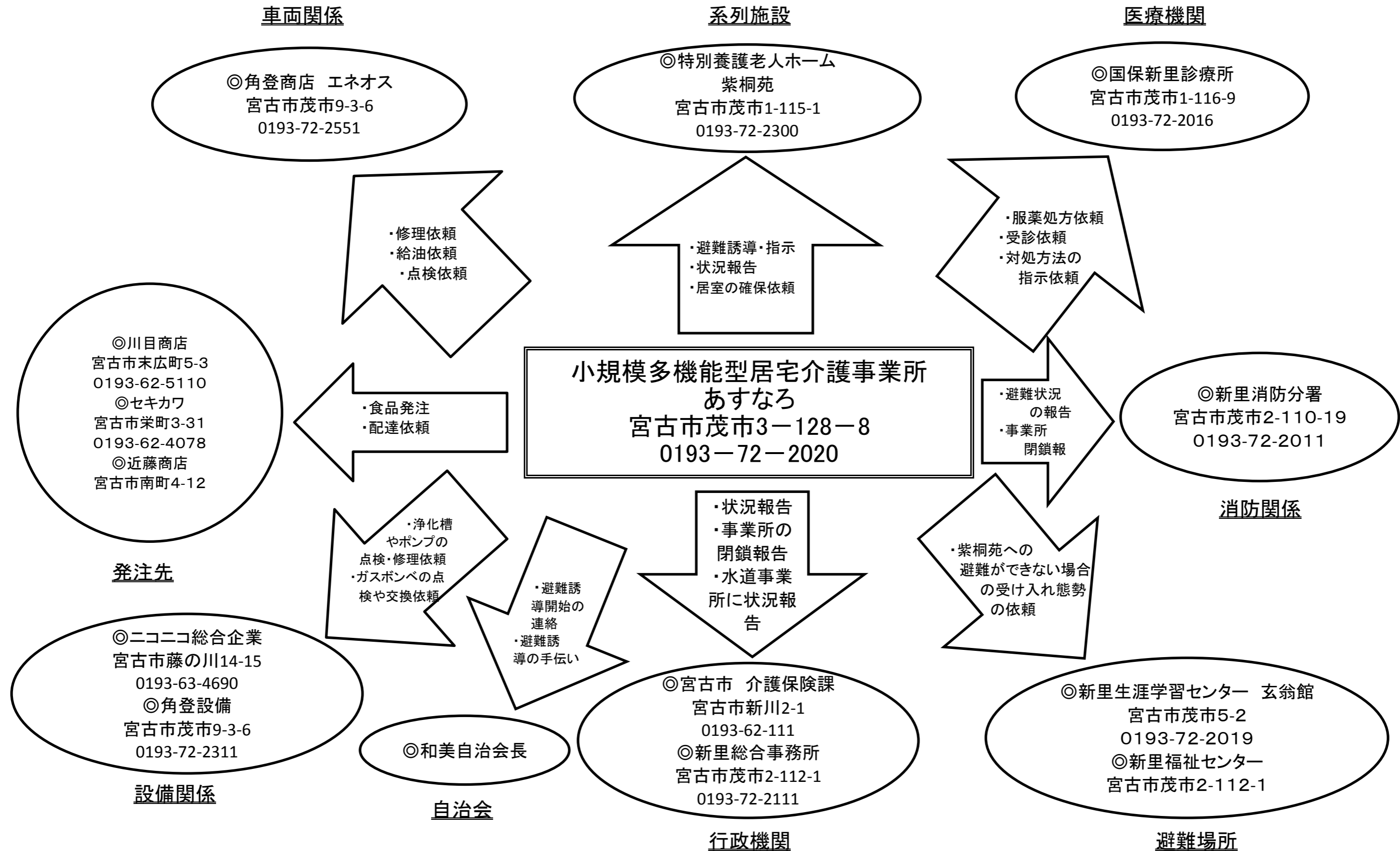
## 災害時の人員体制

配備体制	配備基準	対象職員
注意配備体制	①地域に大雨、風雪、高潮、洪水注意報が2以上発表された時。 ②市内に震度3までの地震が発生した時。	・総括責任者及び防災担当者は連絡が取れる体制をとり、注意を払う。
警戒配備体制	①地域に大雨、暴風、暴風雪、高潮、洪水注意報が4以上発表された時。 ②市内に震度5又は震度6弱の地震が発生した時。	・総括責任者及び防災担当者、連絡担当班班長はお互いに連絡を取り合い、事業所と常に連絡が取れる体制にし場合によって出勤する事とする。 ・事業所に影響が出た場合は勤務者は総括責任者に連絡し指示を仰ぐ。
災害対策本部体制	①地域に相当規模の災害の発生が予測され、なおかつその対策を要する時。 ②地域に災害が発生し、その規模及び範囲等から早急な対策を要する時。 ③市内に震度6強以上の地震が発生した時。 ④総括責任者が必要と認めた時。	・総括責任者及び防災担当者、連絡担当班班長は連絡を取りながら、随時出勤する事。 ・その後、連絡担当班班長は指揮系統にのっとり、各班長・班員に連絡し出勤を促す。 (ただし、総括責任者・防災担当者以外の職員は家族の安全の確保ができ次第出勤する。) ・出勤出来なかった職員の担当は、防災担当者、連絡担当班班長が、割振りし指示を出しながら対応する。

# あすなろ 災害時指揮系統



# 関係機関 連携体制



# 洪水・土砂

